現場を歩く

工業用アルミ・ステンレス製品を一貫生産 坂口製作所和歌山工場

国内最高クラスの溶接技術

高速・高精度の板金設備、多彩な製品群

坂口製作所（本社・大阪市西区千本中2-4-14、社長・坂口清臣氏）は1951年の創業。工業用各種アルミ・ステンレス製品に特化した形で製造・販売・加工を手掛けている。製造拠点は和歌山工場（和歌山県有田郡有田川町清水877-1）。今回、「第3回工場見学ツアー」に参加し、製造現場の熱気に触れた。和歌山工場の現状、今秋稼働予定の和歌山第2工場、行政との連携による人材確保の取り組みなどをリポートする。（白木 毅俊）

坂口社長

同社は資本金1千万円、従業員数89人（本社14人、和歌山工場75人）。和歌山に工場を置いた理由は、創業者で社長の祖父・坂口政一氏の出身地が和歌山という地縁によるもの。なお、社長の父・坂口素昭氏は現会長。主要取引先は東芝、三菱電機、神鋼ノース、モリタ、大邦工業、日本エスエルシー、日阪製作所、原子燃料工業など。

機械、組み立て、製缶など各工場が並列に並ぶ中、機械工場のパンチレーザー複合加工機。右側はMARS自動倉庫など

2022年9月期売上高は9億2800万円。アルミ・ステンレス価格の高騰が響き、同期の収益は伸び悩んだという。過去最高の売上高は1990年頃の20億円弱で、当時の主力製品は建設現場の足場。ただ、その後、新幹線車両用制御機器など高付加価値品へと移行、業容拡充に努めた。23年9月期は増収増益を予想している。

坂口社長は「和歌山工場では板金・溶接・組み立ての一貫生産が可能で、量産にも対応している。一番の強みは国内最高クラスのアルミ・ステンレス溶接技術者が多数在籍していること。高速・高精度な最新鋭の板金設備を持ち、クリーンブースなど幅広い製品群を手掛けている」とも特長。特にアルミ溶接でお困りならばお声掛けいただきたい」と話す。

和歌山工場がある有田川町は、和歌山県中央部の有田郡に属する。有田みかんや山椒が名産品。工場は海岸から直線距離で約20㌔㍍の山あいにあり、敷地が1万1200平方㍍、建屋面積が3465平方㍍。工場建屋は西から順に機械、組み立て、製缶の各工場が並列で並び、その南側で3棟は連結されている。本社事務所および食堂は真ん中の組み立て工場西側部分に配置し、材料倉庫は敷地の北東にある。工場の人員構成は、下垣彫伸工場長のほか塗務3人、生産管理5人、機械18人、組み立て17人、製缶25人、品質保証室6人。

取材の際、南俊彦板金組立部部長の案内で、機械工場から順に見学した。主要設備は機械工場のMARS自動倉庫（15列×9段）一式、シャーリング3台、パンチレーザー複合加工機（AMADA製EMLZ15AJF）、サイクルローダー（ASR48M）、プレスブレーキ12台、各種溶接機65台など。坂口製作所での材料は板材から始まる。MARS自動倉庫（走行トラック付き）は大半の板を保管、4×8サイズ2㍍未満品を135パレットにパソコン操作で管理する。「例えば約2億円を投じ21年に導入した複合加工機は、5×10の大型サイズでも歪みなくピード（絵荷）加工ができる」（南部長）。業務体制は8～17時の一直で、4月以降、約1時間の残業を行っている。夜間騒音を回避するため、無人レーザー加工などの稼働は遅くとも22時には止めるという。

ダイバーシティ（多様性）の面でも、同社は先進的。本社で外国人従業員3人が勤務する。「『金属加工は男の仕事』というのは誤った先入観。当社では入社4年目の女性社員が溶接作業をさえあれば、どんどん新しい仕事を任せるようにして行っている。優秀でやる気いえる」（坂口社長）。

製造における歌線は機械～組み立て～製缶の順で、独自に「手配書」（作業表）も活用してスムーズに流れている。建屋壁面には「坂口タイムス」（社内の壁新聞）、「安全十訓」、標語「不良0（ゼロ）を目指せ！」などが掲示されている。「当社のようにアルミ溶接に特化した工場は全国でもかなり少ない。アルミ溶接技能者は23人（級別では延べ114人）が在籍している。2点目の特長としては、板金加工では和歌山県でトップレベルであり、熟練作業者が多い。3点目はこれまで多彩な製品を製造してきたことだ」（坂口社長）と

足元の主力製品は高速道路表示板、グリーンプース、製薬用トレー、菓子メーカー向け製造ライン部品など。ロングセラー製品では鉄道用信号機、選挙投票機、新幹線車両座体などがある。「当社のような製品を製造してきた和歌山第2工場の所在地は和歌山県有田郡有田川町東丹生図（ひがしにゅうのず）7－1で、今秋の稼働を予定している。「第2工場（敷地面積約500平方㍍）は溶接専門工場で、設備は和歌山工場から移設する。3人体制でスタートする意向。

第2工場今秋稼働 行政などと連携し人材確保

競争力の源泉となるアルミ溶接作業

「しろにし」（和歌山県有田郡有田川町大字二川361番地）は、22年設立の一般社団法人。地域への移住就業を促し、清水地域全体の持続可能な街づくりを目指している。拠点は廃校になった旧城山西小学校（通称「しろにし」）で、約2億円（国・県・町が出資）をかけてリフォーム。単身向け居室（11室）、ドミトリー（8人）、井戸端カフェ、行政支所などを置いた。

「『しろにし』は言わば当社が地元企業や自治体とタッグを組んで設立した独身寮。6月2日から寮生2人が入居する予定。若年の単身労働者が健康に過ごすため、朝晩の食事は和歌山市内の仕出し弁当屋さん（『花むら』）、同施設内で地元食材の加工を行っている）が提供する。中小企業で働いてもらうためには、住む場所と食事への配慮が欠かせない。人材確保と育成が当社の課題だが、それに対応した最適の独身寮となる。

21年に創立70周年を迎えた

坂口製作所 会社沿革

1961年	個人営業を開始。日経アルミ大阪工場の下請けとしてアルミ製箱を製造・販売
67年	和歌山に進出。和歌山工場を建設。従来の板金製品に加えて、製缶製品の製造を開始
79年	清水町より誘致企業第一号の指定を受け、工場用地を譲り受ける
80年	新工場完成。従来工場は経営多角化のために三菱電機・和歌山工場のクーラー部品製造工場となる
86年	株式会社に組織変更
91年	溶接工場が完成。創業40周年記念事業を開催。のぞみ車両既体の製造を開始
2006年	軽金属溶接構造物製造工場認定（LWS A 7802）M級を取得。認定番号M06017
11年	エコアクション21の認証を取得。認証・登録番号007445